

高野良一教授退職記念

高野良一教授 ご退職にあたって

法政大学キャリアデザイン学部長 荒川 裕子

長年にわたり本学部に多大な貢献を果たしてこられた高野良一教授が、今年度をもって退職されます。教授会メンバーを代表して、先生に感謝の言葉を述べさせていただきます。

高野先生は1988年、法政大学文学部教育学科に助教授として着任されました。1993年からは教授として同学部で教鞭を執られ、2003年、教育学科が発展的に改組されてキャリアデザイン学部が誕生したのを機に、本学部の教授として新たなスタートを切ることになりました。以来20年近く、先生は本学部のまさしく柱として、私たちを力強く支え、導いてくださいました。

2007年には二代目の学部長に就任され、3年間にわたって重責を担われました。初代学部長の笹川孝一法政大学名誉教授が、本学部の骨組みを作ったとすれば、高野先生はそこに、強靱かつ柔軟な筋肉を付けていく役割を果たされたといつてよいでしょう。

学部長在任中には、学部創設から10年間の成果と課題を踏まえて、大規模なカリキュラム改革にも着手されました。「発達・教育キャリア」「ビジネスキャリア」「ライフキャリア」という3つの領域を通してキャリアデザインにアプローチするとともに、「個人」と「社会」との関係性を軸に、各領域の科目群を3つのレベル（ミクロ・メゾ・マクロ）に分類するという、現在まで継承されている本学部のカリキュラムの枠組みは、このときの議論から生まれたものです。高野先生のリーダーシップのもと、常にスコープ（広がり）とシークエンス（順次性）を意識しつつカリキュラムを組み立てていくやり方を、

2 法政大学キャリアデザイン学部紀要第19号

私自身も深く学ばせていただきました。当時、先生が私たち教員に向けて、しばしば「お店を広げなきゃいけないよ」と語りかけておられたのは、学際的な学部を、とりわけキャリアデザインという他に類を見ない学部を発展させていくには、個々人の専門領域に閉じこもることなく、しなやかでオープンな視野をもつことが重要であると教えてくださっていたのだと思います。

そうした視座の広がりや、高野先生ご自身の研究にも反映されています。詳しくは、この後に続く先生の業績一覧やご論考をご覧ください。先生は、教育行財政研究者として、日本教育行政学会でも中心的な役職を歴任されたほか、アメリカの地方教育行政についても数多くの研究を発表しておられます。このたびのご退職にあたり、最終講義を兼ねたシンポジウムのために先生が提案されたテーマ「学校の組織と学習環境をデザインする——民主主義・シティズンシップ・本質的な問いを焦点に——」には、教育をめぐる今日的にして根本的なイシューに対する、高野先生の真摯な問いかけと探求の姿勢が端的に集約されているように感じます。

学部内ばかりでなく、法政大学全体に関わる教職課程の運営においても、高野先生には計り知れないほどのご支援をいただきました。とりわけ2018年に教職課程センター長の職に就かれて以来、本学の複数ある校地に足を運ぶのも厭わず、教職課程をめぐる複雑な折衝や調整、取りまとめなどに心を砕いてくれました。

教育というものに対する、高野先生の深い情熱と真剣な姿勢は、専門分野の違いを越えて、私たち教員に大きな気づきや示唆を与えてくれました。まだまだ先生から学ぶべきことは多くありますが、ご退職をひとつの区切りとして、これまでのご尽力に心より感謝申し上げますとともに、今後とも本学部に対して変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。